

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもりまします。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせてまします。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放をかちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてまします。

今週の紙面

- 2面 女性ニュース ■3面 読者のページ/まんが/パズル
- 4・5面 教育研究全国集会2024から/気候正義って?/ホットライン ■6面 夏の疲れをいやすスキンケアとメイク/文化情報 ■7面 新婦人の活動/主張/母の歴史



山形・酒田市 五十嵐裕子(87)

新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

スーパーから米が消えた!

米不足なぜ?



棚には米がまったくなく、カップ麺も少量に

市場まかせやめ、国の責任で米の増産・管理を

農民運動全国連合会(農民連)会長・長谷川敏郎さんに聞く



スーパーなどの店の棚にお米がないという悲鳴がニュースやインターネットにあふれています。米不足はなぜ起きたのでしょうか。解決への方向は? 農民連会長の長谷川敏郎さんに聞きました。また、新婦人が全国でとりくんだ「お米の陳列・販売状況緊急チェック」からその実態と声を紹介いたします。

米不足の原因はどこ? 政府による米減産の押し付け

今回の米不足は、2023年産米が高温障害による品質低下や玄米から精米になる割合が低下し玄米量が足りなくなったこと、食料品全体の価格が上昇するなかで米消費が増加したことなどが、要因と言われています。しかし、この米不足の原因は政府の失政です。コロナ禍による飲食・観光業等の自粛強制で需要が減少し、米「過剰」が発生。しかし政府は備蓄用に米を買い上げること

をせず市場に放置し、21年産生産者米価は60キロ9000円台にまで暴落しました。政府がとった「対策」は、20万ト以上の「減産」を22、23年産の2年連続での押し付け。流通する在庫が減ったところに需要が伸びた結果が、米不足です。生産量全体のわずか3%程度の増減で、価格が乱高下しています。



荒瀬川の氾濫で広い田んぼに土砂が流入(山形県酒田市八幡地区 長谷川さん提供)

米パニックはなぜ? 生産量と消費量と在庫



農民連資料から

7月30日の農水省食糧部会で報告された民間流通米の6月末在庫は156万トで、比較可能な1999年以来最低の水準です。1カ月に60万ト近く消費しますから、9月半ばに23年産米はなくなります。6月末在庫と5年古米を含む政府備蓄米を合わせても、247万トしかなくギリギリです。

来年の米の先食い、価格高騰も

政府は批判をかわすため、「新米が出回ると供給も安定する見込み」と喧伝していますが、新米が供給されれば解決するのでしょうか。

米穀年度は11月1日スタート、翌年10月31日までです。本来、23年産米は国と民間で10月末まで

在庫がなければなりません。9月からの新米を当てにするのは、来年に食べるお米を先食いしているだけで、問題の解決にはなりません。

農業現場では、米の集荷競争が過熱しています。その結果、消費者価格も高騰し、国民生活は

米問題の大本には何が?

苦しくなり、「食べたくても食べられない」人々の問題は、一層深刻になっています。生活困窮者などへの食料の直接支援の制度化は緊急課題です。

主食への責任放棄、米農家の時給10円

今回の米不足の大本には、米の輸入自由化以来、「国民の主食に責任を持たない」自民党政治があります。WTO(世界貿易機関)協定批准に合わせ、1995年食糧管理法が廃止され、主要食糧法のもとで政府の役割は、備蓄とミニマムアクセス米輸入に限定されました。

生産現場では、2004年から「米改革」がスタートし、米生産量の判断は農家・農業団体の自己責任へ、18年から政府は生産調整から完全に手を引きました。いま、日本産米の生産・供給全体に責任を持つ機関はどこにもないのです。全くの市場任せです。

9月28日号は休刊です

2面へ

